

演技指導や演出に情熱を注ぐ団長の堀田さん



堀田さんは町役場職員として長年勤務しました



馬水南公民館で稽古をする劇団石の団員と仲間たち

## 歴史ある劇団 「まじめに遊ぼう！」が モットー

昭和45(1970)年に発足した、熊本の歴史ある劇団が「劇団石」。前身は熊本NHK放送劇団で、馬水北に暮らす堀田清さん(72)を団長に結成されました。

「まじめに遊ぼう！」をモットーに30代から70代と幅広く、現在10人ほどの団員で構成されています。週に2回、馬水南公民館で稽古が行われています。訪れた日は、9月10日・11日に熊本市健軍文化ホールで上演される「裸でスキップ」の舞台稽古の最中でした。今回の作品には、劇団OBや交流のある劇団の人たちも参加しており、和気あいあいと稽古が進められていました。

総指揮を執る堀田さんは、昨年5

月に同劇団が上演した「アルジャーノンに花束を」の演出で、「熊本県文化懇話会賞」を受賞しました。熊本の芸術文化の分野における功績をたたえる賞です。「20歳の頃、芝居が好きで手探りから始めて、気がついたら50年以上がたちました。これからもマイペースで好きな芝居を全うしたい」と堀田さんは言っており、穏やかな笑顔を見せます。

## 馬水南に住む 劇団員の井芹さん

劇団石の舞台稽古の様子を見せてもらいました。今回上演される「裸でスキップ」は、東京下町の家具屋を舞台にした涙あり笑いありの物語。役者さんらの演技には細かいこだわりが込められており、笑わせるシーンでは見ているこちらにも思わず吹き出してしまいます。

馬水南に住む井芹誉子さん(46)も団員の一人で、熊本市動植物園に勤務しながら芝居を続けています。「22歳の時、劇団石のオーディションを受けて入団しました。キャラもあってか、コミカルな役や母親役が多いかな」と明るい性格の井芹さん。

2年前に結成50周年を迎えた劇団石でしたが、コロナ禍にあつて記念公演も延期になったそうです。「表現



とても明るくてポジティブな井芹さん

することの楽しさはもちろんですが、当劇団はとにかくアットホームなんです。『演劇の火を消さない』という堀田団長の熱い思いにこれからもついていきます」と井芹さんはほがらかに笑いました。



コミカルな演技を熱演する井芹さん(右)